

33 アートの会 11 月度 座学 案内

日時；11 月 19 日 水曜日 13:15 から 16:00

場所；市民センター @211 室 7156

葛飾応為特集

今回は浮世絵の世界に戻ってみましょう。葛飾北斎の娘、応為を取り上げます。
まず、映画を見ます。次に NHK の番組を見ます。

1. 映画「百日紅」

2025 年 90 分

13:15-14:45

江戸風俗研究家で文筆家や漫画家としても活躍した杉浦日向子の漫画代表作「百日紅」をアニメーション映画化。浮世絵師・葛飾北斎の娘で、同じく浮世絵師として活躍した女性・お栄が、父・北斎や妹、仲間たちとともに生きた姿を、江戸の町の四季を通して描く。

北斎と娘の破天荒な創作と喜怒哀楽の日々が、現代に息づく傑作アニメに

欄干の前に毅然と立つ女、200 メートルにも及ぶ木造の両国橋を行き交う町人たち、ストーンズ風ロックの BGM、そこから視点が浮上し江戸の全景を俯瞰するショットへ。印象的な冒頭のシークエンスから、「浮世絵」「江戸の風俗」「親子と男女」といった古い題材に現代の感性と技術を注ぎ込み、平成の世に息づくアニメを創造しようという原恵一監督の気概が伝わってくる。



原作は、漫画家で江戸風俗研究家でもあった杉浦日向子が昭和後期に発表した代表作「百日紅」。主人公お栄（葛飾応為）は葛飾北斎の三女で、父親と同じ浮世絵師の道を選び、美人画などで高く評価されたという。そんな彼女の視点から、奇行で知られた北斎の創作をめぐる逸話や、居候の絵師も交えたオンボロ長屋での風変わりな共同生活、お栄自身の絵師としての試練と不器用な恋が語られる。

アニメーション制作の Production I.G と原監督は初のタッグ。原作漫画と浮世絵の豊穡な世界を 2D アニメで再現しつつ、街並みや建物、橋などにはパースペクティブを強調した 3D 描画を織り込むことで、カリカチュアライズされた妙味と引き込まれるような質感、奥行き感を両



立させた。船遊びに出た穏やかな川面がにわかに荒れて、有名な北斎画「神奈川冲浪裏」の逆巻く波になるダイナミズムは、アニメならではの楽しさだ。

評価が分かれそうなのは、主な登場人物のボイスキャストを著名俳優で固めた点。個人的には各キャラの登場からしばらくは発話のたびに俳優の顔が浮かんでしまい、没入の妨げになった。もちろん、ひいきの俳優を目当てに観るファンも多いだろうし、難しいところだ。

北斎の盲目の末娘・お猶は、原作では1つのエピソードにのみ現れ、ほぼ病床に伏したまま幼い命を散らす。アニメではお栄に連れられ両国橋で活気ある往来を聞き、茶屋の男の子と雪遊びを楽しむ。原監督が不憫に思い、アニメの中の「浮き世」でお猶に生の喜びをプレゼントしたかのようで、胸が熱くなった。

(高森郁哉)

2. 休憩

14:45-15:00

3. 新・美の巨人たち 葛飾応為「吉原格子先之図」×高島礼子

15:00-15:25

あの北斎の娘、葛飾応為が描いた異色作が、今回の作品「吉原格子先之図」。華やかな吉原の情景が、光と影の強烈な対比によって描かれています。浮世絵に精通した彼女は、独自の技法を駆使し、様々な光と影を描き分けています。

そんなこの絵には、ある謎が。

居並ぶ花魁の表情はなぜか隠され、全身が黒く塗りつぶされた者までいます。

自ら北斎の影として生きた女性絵師、葛飾応為は、この光と影の中に、吉原の何を描こうとしたのでしょうか？



4. ヒストリア「おんなは赤で輝く 北斎の娘・お栄と名画のミステリー」 15:25-16:00

葛飾北斎の娘・お栄こと葛飾応為を特集する。

“赤”への執着や、緻密な“線”や“光”の描き方など、北斎には見られない、お栄独自の筆の痕跡を、最新の科学調査と高精細の4Kカメラで両者の作品を検証し、浮かび上がらせる。

また、お栄が北斎と滞在した長野・小布施を、井上あさひアナが探訪。父と娘の創作秘話に迫る。



以上